

琴古流尺八京都大学千鳥会

第十七回定期演奏会

一九七六年十一月二十八日
府立文化芸術会館

贊助出演

山 岸 愛

阿 部 憲 一

平 川 豊

京都女子大学箏曲部

千鳥の曲

吉澤檢枝作曲。もと胡弓の曲として作曲し後に箏曲に移したものであろうといわれている。そのためか尺八の持続音がこの曲の施律には似つかわしい。今年も例の如く一回生全員による千鳥会としては大合奏。今宵の開幕を飾るに相応しい祝い歌たらんことを。

尺八	高田長明	富山実
	浜窪隆雄	堀田光一
	増野徹	
箏本手	加藤ふじ枝	橋本慶子
箏替手	阿方雅子	笹川美恵子

鍔字

甲州明暗寺伝本曲。「バンジ」と読む。鍔とは、真言密教の大日如来を表わすという。なんとか最後まで無事に吹けるよう、如来に祈るばかりです。

尺八	小林隆
辻	治俊

冬の曲

古今調子。吉澤檢校作曲。ただし延々と続く手事は、明治の松阪檢校の作曲。両檢校の手になる春夏秋冬の四部作のうちのひとつ。歌は「古今集」からとられ、前弾ののち前唄として三首、そして手事が続き、後唄に一首がうたわれる。手事は四部作中最も優れたものといわれている。

尺八 矢頭 治

箏本手 野尻 久美子

箏替手 吉久保 由美子

尺八三重奏

船川利夫作曲。三つの小曲とダ・カーポにより成るトリオ・ソナタ。幻想的な第一曲、リズムカルな第二曲。古典本曲風な独奏を含む第三曲。第一曲の思い直しでまとめる第四曲。二回生による演奏。「愛敬だ。」との先輩の痛評を背に、どのような奮起を見せてくれましょうか。

第一尺八 山代 裕彦

第二尺八 隅原 裕嗣

第三尺八 岡本 弘

山谷

海童道（ワダツミドウ）道曲。「大河」とも呼ばれているらしい。極弱最低音の底ユリに始まり、よく似たフレーズの繰り返しのうちに最高音へ、のち次第に下降し再び最低音へ、そして終曲。

淡々と吹きたいとは奏者の弁。しかし、所詠「無いものは出せない」それだけの事。

尺八 田内 幸康

残 月

峰崎勾当作曲。残月、すなわち有明の月である。作曲者の門下の松屋某の娘の追善のため作られた曲。極めてテンポの遅い重厚な前唄から一転してはなやかな手事、後唄では二上りに転じしめやかに終る。手事物の先駆をなす寛政期の名曲。

尺八 新階 創
三 絃 山岸 愛

選 返

増本喜久子作曲。

「似た楽器でしかも全然違った土壤に生まれている楽器」が「両方から歩み寄る」のではなく「たまたまふたつが全く偶然に出会ったみたいな」という作曲者の言葉に力を得て、四人は思うままに吹くが、さて、この四人の出会いとは……………」

第一尺八（一尺八寸）

深 田 弘 明

第二尺八（二尺一寸・二尺四寸）

矢 頭 治

第一リコーダー（ソプラニーノ）

ソプラノ・テナー）

平 川 豊

第二リコーダー（アルト・テナー）

阿 部 憲 一

明治三十四年、横山正雄氏は、京都帝大内の団体として千鳥社を結成しました。後「文弱」が「悪」とされる時代に活動中断を余儀なくされたものの、昭和三十四年山岸政行（二代目芦水）氏により千鳥会として再興され、本年は千鳥社結成七十五周年にあたります。数年前千鳥会のサロン化が叫ばれたことがありましたが、最近は、部屋に部員がいれば竹の音は聞えるようになりました。しかし、逆に技術の低下ははなはだしいものがあります。吹いても飛ぶは千鳥ならぬ阿呆ドリ？そんな折、会員の様々な思惑の中で第十七回定期演奏会の幕が上がることとなりました。

最後に、いつもつたない竹に合わせて頂き、今回の定演にも賛助して下さる山岸愛先生、「解逅」に貴重な助言をして頂きました作曲者増本喜久子様、お箏の賛助をして頂きます京都女子大学箏曲部の皆様、そしてリコーダーの賛助の平川・阿部両氏に紙上ながら心からお礼申し上げます。

邦楽の流れに御奉仕二百年

和楽器専門店 老舗 金 善

京都市東山区大和大路四条下ル二丁目(どんぐり上ル) 561-2940・541-1093

琴古流尺八楽譜

楽書・尺八・各種附属品

株式会社 琴古出版社

〒530 大阪市北区浜崎町28番地 電話 06(371) 2 3 9 4

真山銘尺八

〒560 豊中市服部豊町2-5-7 TEL 068-63-0564

永広真山